

## 国際対話「地域に根付いた市民主体の AMR 対策の展開に向けて － Antibiotic Smart Sweden の取組に学ぶ－」

### 趣旨

薬剤耐性（AMR: Antimicrobial Resistance）は公衆衛生・国際保健の課題として、EU や G7 等の国際的な議論の場でも大きな注目を浴びています。2019 年には 495 万人もの命が AMR の影響で失われており、このまま AMR 対策を実行しなければ、今後 25 年の間に世界で 3900 万人が命を落とすと予測されています。

さらに、AMR は人間、動物、食品、環境にまたがる複雑な課題であり、国や地域、世界全体が一丸となって、医療機関、高齢者施設、教育機関、上下水道施設、農畜水産業施設等の分野横断的な連携を推し進めることが重要です。一方で、各施設は市民の日々の生活と不可分であり、活動内容も人口動態、歴史、地場産業等の地域の特性を反映しています。その中で、効果的かつ実効性の高い AMR 対策を進めるには、多様な関係者の賛同と協力を得ながら、地域に根付いた形で AMR 対策を展開する必要があります。

スウェーデンでは、「Antibiotic Smart Sweden」という取り組みが省庁横断的に立ち上がり、複数の自治体や地域が参画して、AMR 対策における分野横断的な連携を推し進めています。多様な関係者の賛同を得ながら、下水道施設や高齢者施設での AMR の動向把握調査事業、教育機関での普及啓発等を展開しており、地域に根付いた市民主体の AMR 対策が進んでいるところです。日本でも地域に根付いた AMR 対策の重要性は認識されていますが、具体的な施策や予算措置は自治体の裁量も大きく、各地域の AMR 対策には濃淡があります。一方で、「新型インフルエンザ等対策政府行動計画」が全面改定され、AMR 対策を含む感染症対策において地域が果たす役割への期待は増しています。

加えて、2024 年 9 月 26 日には国連総会ハイレベル会合で AMR に関する政治宣言が採択されました。国際社会が目指すビジョンを具体的な実践にまで落とし込み、各地域に指針を提示していく必要性はどの国でも求められています。

そこで、本会合ではまずは 2023 年に EU 議長国（上半期）、G7 議長国として世界の AMR 対策を先導してきたスウェーデンと日本に焦点を当てます。「Antibiotic Smart Sweden」をはじめとするスウェーデンの取り組みを概説いただいたうえで、両国の自治体から AMR 対策の地域展開事例をご紹介いただき、ディスカッションを通じて、地域に根付いた市民主体の AMR 対策を各地で展開するための方法や課題を整理し、今後の展望を示すことを目指します。

## 概要

- **日時**： 2024年10月25日（金）18:00-20:00（開場 17:45）
- **会場**： Global Business Hub Tokyo  
東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 3F
- **言語**： 日本語・英語（同時通訳有り）
- **主催**： 日本医療政策機構、AMR アライアンス・ジャパン
- **後援**： スウェーデン大使館
- **助成**： スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団

## プログラム（敬称略・登壇順）

### 18:00-18:10 開会挨拶

**乗竹 亮治**（日本医療政策機構 代表理事・事務局長）

### 18:10-18:20 趣旨説明

**河野 結**（日本医療政策機構 マネージャー／AMR アライアンス・ジャパン）

### 18:20-18:40 講演 1 「EU における横断的な AMR 対策の推進に向けて」

**Patriq Fagerstedt**（スウェーデン研究会議 シニア・リサーチ・ポリシー・オフィサー／  
薬剤耐性に関するプログラム連携イニシアチブ（JPIAMR）事務局長代理）

### 18:40-19:00 講演 2 「Antibiotic Smart Sweden – 省庁間と自治体間の連携」

**Camilla Björn**（Antibiotic Smart Sweden プロジェクトリーダー／  
スウェーデン国立研究所）

**Gunilla Skoog Ståhlgren**（Antibiotic Smart Sweden プロジェクトリーダー／  
スウェーデン公衆衛生庁）

### 19:00-20:00 ディスカッション「地域に根付いた市民主体の AMR 対策の展開に向けて」

パネリスト：

**大崎 正悟**（姫路市 健康福祉局 保健医療部 地域医療課 課長）

**平山 裕章**（福岡県 保健医療介護部 ワンヘルス総合推進課 課長）

**Lillan Fahlstedt**（タヌム市 公衆衛生戦略官）

**Patriq Fagerstedt**（スウェーデン研究会議 シニア・リサーチ・ポリシー・オフィサー／  
薬剤耐性に関するプログラム連携イニシアチブ（JPIAMR）事務局長代理）

**Camilla Björn**（Antibiotic Smart Sweden プロジェクトリーダー／  
スウェーデン国立研究所）

**Gunilla Skoog Ståhlgren**（Antibiotic Smart Sweden プロジェクトリーダー／  
スウェーデン公衆衛生庁）

モデレーター：

**塚本 正太郎**（日本医療政策機構 シニアアソシエイト／AMR アライアンス・ジャパン）

**登壇者**（敬称略・登壇順）**乗竹 亮治**

（日本医療政策機構 代表理事・事務局長）

日本医療政策機構設立初期の2005年に参画。患者アドボカシー団体の国際連携支援や、震災復興支援プロジェクトなどをリード。その後、大学院留学を経て、『Health Affairs』を発刊することでも知られる、米国の医療人道支援財団「Project HOPE」にて、勤務。ベトナム、フィリピンなどアジア太平洋地域で、官民連携による被災地支援や健康増進プロジェクトに従事。また、米海軍による病院船を活用した医療人道支援プログラムをはじめ、軍民連携プログラムにも多く従事。米海軍主催の医療人道支援プロジェクトにて、自衛艦「くにさき」に乗艦勤務。WHO（世界保健機関）'Expert Consultation on Impact Assessment as a tool for Multisectoral Action on Health'ワーキンググループメンバー（2012）。政策研究大学院大学客員研究員（2016-2020）。東京都「超高齢社会における東京のあり方懇談会」委員（2018）。経済産業省「認知症イノベーションアライアンスWG」メンバー、世界認知症審議会（WDC: World Dementia Council）委員、グローバル企業のアドバイザーなども務めている。慶應義塾大学総合政策学部卒業、オランダ・アムステルダム大学医療人類学修士。2022年度第32回武見奨励賞受賞。2016年から事務局長、2024年から代表理事に就任。

**河野 結**

（日本医療政策機構 マネージャー／AMR アライアンス・ジャパン）

シドニー大学大学院医療政策学修士課程修了。修了後、日本医療政策機構に参画。薬剤耐性（AMR：Antimicrobial Resistance）やワクチン・予防接種に関する事業を中心に担当。担当事業等を取り巻く国内外の政策課題の調査分析や各種会合の企画運営に従事。広報・アウトリーチ活動やアドボカシー活動等にも取り組む。

**Patriq Fagerstedt**

（スウェーデン研究会議（*Vetenskapsrådet*）シニアリサーチポリシーオフィサー／薬剤耐性に関するプログラム連携イニシアチブ（*JPIAMR*）事務局長代理）

カロリンスカ研究所で神経科学の博士号を取得後、アントワープ大学で博士研究員としてキャリアを開始。その後、カロリンスカ研究所 *Swedish Brain Foundation* でのフェロウシップを経て、アストラゼネカ社で2年間、博士研究員として研究活動に従事。続いてカロリンスカ研究所助成金事務局で米国担当のコンプライアンス・オフィサーを務めた後、2014年にスウェーデン研究会議（*Vetenskapsrådet*）においてシニア・リサーチ・ポリシー・オフィサーとして着任。2017年には薬剤耐性に関するスウェーデン国家研究プログラムのプログラムマネージャーに就任し、2021年からはスウェーデン全国労働組合スウェーデン専門科学者協会（*Naturvetarna*）の会長を務めている。

**Camilla Björn**

(Antibiotic Smart Sweden プロジェクトリーダー／スウェーデン国立研究所)  
スウェーデン国立研究所 (RISE: Research Institutes of Sweden) の研究員兼プロジェクトリーダー。医薬品や医療機器の臨床試験や臨床開発から、感染症や AMR に関する社会的課題まで、ライフサイエンス分野で約 20 年の経験を持つ。Antibiotic Smart Sweden のプロジェクトリーダーとして感染管理分野を担当している。修士 (医学)、博士 (医学)。

**Gunilla Skoog Ståhlgren**

(Antibiotic Smart Sweden プロジェクトリーダー／スウェーデン公衆衛生庁)  
スウェーデン公衆衛生庁勤務。20 年以上 AMR 分野に従事し、抗菌薬使用サーベイランスやスウェーデンの州レベルでの Strama グループとの協力、臨床試験のコーディネートを実施。ビジョン主導型のイニシアチブである Antibiotic Smart Sweden のプロジェクトリーダーを務める。修士 (薬学)。

**大崎 正悟**

(姫路市 健康福祉局 保健医療部 地域医療課 課長)  
1999 年早稲田大学法学部卒業。同年姫路市役所に入庁し、同市の主に保健福祉部局や厚生労働省老健局での勤務を経て、2023 年より現職。2022 年 2 月に「姫路市 AMR 対策推進のまち宣言」を担当者として起草し、以降、AMR 対策に関する市民への啓発事業などに注力している。

**平山 裕章**

(福岡県 保健医療介護部 ワンヘルス総合推進課 課長)  
1993 年福岡県庁入庁。保健医療介護部がん感染症疾病対策課参事、ワクチン接種推進室長、保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室長を経て、2024 年より現職。

**Lillan Fahlstedt**

(タヌム市 公衆衛生戦略官)  
2022 年以降、Antibiotic Smart Sweden のパイロット自治体となったタヌム市で公衆衛生戦略官として基準試験などを担当している。リンショーピン大学修士課程修了 (公衆衛生学)。



## 日本医療政策機構について

日本医療政策機構（HGPI: Health and Global Policy Institute）は、2004年に設立された非営利、独立、超党派の民間の医療政策シンクタンクです。市民主体の医療政策を実現すべく、中立的なシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、社会に政策の選択肢を提供してまいります。特定の政党、団体の立場にとらわれず、独立性を堅持し、フェアで健やかな社会を実現するために、将来を見据えた幅広い観点から、新しいアイデアや価値観を提供します。日本国内はもとより、世界に向けても有効な医療政策の選択肢を提示し、地球規模の健康・医療課題を解決すべく、これからも皆様とともに活動してまいります。当機構の活動は国際的にも評価されており、米国ペンシルベニア大学のローダー・インスティテュート発表の「世界のシンクタンクランキング報告書」における「国内医療政策」部門で世界2位、「国際保健政策」部門で世界3位に選出されています（2021年1月時点（最新データ））。

## AMR アライアンス・ジャパンについて

2018年11月に設立した、AMR対策をマルチステークホルダーで議論する独立したプラットフォームです。2024年10月現在の構成メンバーは、グラクソ・スミスクライン株式会社、「子どもと医療」プロジェクト、塩野義製薬株式会社、島津ダイアグノスティクス株式会社、動物用抗菌剤研究会、日本ベクトン・ディッキンソン株式会社、日本医師会、日本医真菌学会、日本医療薬学会、日本化学療法学会、日本環境感染学会、日本感染症学会、日本小児感染症学会、日本製薬工業協会、日本TDM学会、日本病院薬剤師会、日本薬学会、日本薬剤師会、日本臨床微生物学会、ビオメリュー・ジャパン株式会社、姫路市、ファイザー株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社、Merck & Co., Inc.、日本医療政策機構（事務局）です。

## 日本医療政策機構 寄附・助成の受領に関する指針

日本医療政策機構は、非営利・独立・超党派の民間シンクタンクとして、寄附・助成の受領に関する下記の指針に則り活動しています。

### 1. ミッションへの賛同

当機構は「市民主体の医療政策を実現すべく、独立したシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、社会に政策の選択肢を提供すること」をミッションとしています。当機構の活動は、このミッションに賛同していただける団体・個人からのご支援で支えられています。

### 2. 政治的独立性

当機構は、政府から独立した民間の非営利活動法人です。また当機構は、政党その他、政治活動を主目的とする団体からはご支援をいたしません。

### 3. 事業の計画・実施の独立性

当機構は、多様な関係者から幅広い意見を収集した上で、事業の方向性や内容を独自に決定します。ご支援者の意見を求めることがありますが、それらのご意見を活動に反映するか否かは、当機構が主体的に判断します。

### 4. 資金源の多様性

当機構は、独立性を担保すべく、事業運営に必要な資金を、多様な財団、企業、個人等から幅広く調達します。また、各部門ないし個別事業の活動のための資金を、複数の提供元から調達することを原則とします。

### 5. 販売促進活動等の排除

当機構は、ご支援者の製品・サービス等の販売促進、または認知度やイメージの向上を主目的とする活動は行いません。

### 6. 書面による同意

以上を遵守するため、当機構は、ご支援いただく団体には、上記の趣旨に書面をもってご同意いただきます。

特定非営利活動法人日本医療政策機構

〒100-0004

東京都千代田区大手町 1-9-2

大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 3 階

グローバルビジネスハブ東京

TEL: 03-4243-7156 FAX: 03-4243-7378

Info: [info@hgpi.org](mailto:info@hgpi.org)

Website: <https://www.hgpi.org/>

## International Dialogue

# "Fostering Community & Citizen-led Approaches to AMR: Lessons from Antibiotic Smart Sweden"

### Background

Antimicrobial Resistance (AMR) has drawn significant attention as a public health and global health challenge and has been internationally discussed at European Union (EU) and G7 levels. In 2019, 4.95 million lives were lost due to the impact of AMR. If appropriate AMR countermeasures are not implemented, it is predicted that 39 million people will lose their lives over the next 25 years.

Furthermore, AMR is a complex challenge spanning human health, animal health, food production, and the environment, necessitating cross-sectoral collaboration among medical institutions, elderly care facilities, educational institutions, water and sewage facilities, agricultural and aquacultural facilities, and other relevant sectors. It is imperative that countries, regions, and the international society work together to promote this interdisciplinary cooperation. However, these facilities are an integral part of citizens' daily lives in the local community, and their activities reflect the unique characteristics of each community, including demographics, history, and local industries. Given this understanding, a community and citizen-led approach to AMR are essential to advance our fight against AMR in a community-based manner, and in collaboration with a diverse range of stakeholders.

In line with the recognition above, Sweden has launched an inter-ministerial initiative named "Antibiotic Smart Sweden," with multiple municipalities and regions participating to promote cross-sectoral collaboration in AMR countermeasures. With the support of various stakeholders, community and citizen-led approach to AMR are advancing, including surveys on AMR trends in sewage facilities and elderly care facilities, as well as awareness-raising activities in educational institutions.

In Japan, the significance of community and citizen-led AMR countermeasures is recognized, but specific AMR measures and budget allocations are largely at the discretion of local governments, resulting in varying levels of AMR countermeasures across local communities. At the same time, expectations for the role of local communities in infectious disease control, including AMR countermeasures, have increased, following the comprehensive revision of the "Government Action Plan for Pandemic Influenza and New Infectious Diseases." At the global level, each country is now also encouraged to translate the vision of the international society into concrete practices at the local community level, considering the adoption of a political declaration on AMR at the high-level meeting of the United Nations General Assembly on September 26, 2024. Guidance towards community-based, citizen-led AMR countermeasures are urgently needed.

Therefore, this meeting will focus on Sweden and Japan, who are leading the global fight against AMR as the EU presidency (first half of the year) and the G7 presidency in 2023. After an overview of Sweden's AMR initiatives including Antibiotic Smart Sweden, case studies of community and citizen-led approach to AMR in both countries will be presented by local government. We aim to discuss and explore the opportunities and challenges of implementing community and citizen-led approach to AMR across multiple locations and outline future perspectives.

## Overview

- **Date and time:** Friday, October 25, 2024; 18:00 to 20:00 JST
- **Venue:** Global Business Hub Tokyo, Grand Cube 3F, Otemachi Financial City, 1-9-2, Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo
- **Host:** Health and Global Policy Institute (HGPI) and AMR Alliance Japan
- **Supported by:** Embassy of Sweden
- **Funded by:** Scandinavia-Japan Sasakawa Foundation
- **Language:** Japanese and English (with simultaneous interpretation)

**Program** (Titles omitted; listed in order of presentation)

**18:00-18:10** Opening Remarks

**Ryoji Noritake** (Chair, Health and Global Policy Institute)

**18:10-18:20** Introduction

**Yui Kohno** (Manager, Health and Global Policy Institute / AMR Alliance Japan)

**18:20-18:40** Lecture 1 "AMR Countermeasures in Europe (Sweden)"

Focus on Research and Policy Development"

**Patriq Fagerstedt** (Senior Research Policy Officer, Vetenskapsrådet, Swedish Research Council/  
Acting Head of the Secretariat, the Joint Programming Initiative on  
Antimicrobial Resistance (JPIAMR))

**18:40-19:00** Lecture 2 "Antibiotic Smart Sweden"

**Camilla Björn** (Project leader, Antibiotic Smart Sweden / RISE Research Institutes of Sweden)  
**Gunilla Skoog Ståhlgren** (Project leader, Antibiotic Smart Sweden /  
Public Health Agency of Sweden)

**19:00-20:00** Discussion "Fostering Community and Citizen-led Approaches to AMR"

**Speakers:**

**Shogo Osaki** (Director, Community Medical Division, Health and Welfare Bureau, Himeji City)  
**Hirofumi Hirayama** (Director, One Health General Promotion Division,  
Fukuoka Prefectural Government)

**Lillan Fahlstedt** (Public Health Strategist, Tanum Municipality)

**Patriq Fagerstedt** (Senior Research Policy Officer, Vetenskapsrådet, Swedish Research Council/  
Acting Head of the Secretariat, the Joint Programming Initiative on  
Antimicrobial Resistance (JPIAMR))

**Camilla Björn** (Project leader, Antibiotic Smart Sweden / RISE Research Institutes of Sweden)  
**Gunilla Skoog Ståhlgren** (Project leader, Antibiotic Smart Sweden /  
Public Health Agency of Sweden)

**Modelator**

**Shotaro Tsukamoto** (Senior Associate, Health and Global Policy Institute / AMR Alliance Japan)



**Speakers** (titles omitted; in order of presentation)**Ryoji Noritake**

(Chair, Health and Global Policy Institute)

Mr. Ryoji Noritake is the Chair of Health and Global Policy Institute (HGPI), a Tokyo-based independent and non-profit health policy think tank established in 2004. He also served as Asia-Pacific Lead for Project HOPE, a US-based medical humanitarian aid organization. Through HOPE and HGPI, he has led health system strengthening projects in the Asia-Pacific region and engaged in the US Navy's medical humanitarian projects. His focus is a multi-sectoral approach to health issues such as public-private partnerships and civil-military coordination. He was a member of the Tokyo Metropolitan Government's Policy Discussion Roundtable for Super Ageing Society (2018) and served as a Visiting Scholar at the National Graduate Institute for Policy Studies (2016-2020). He is currently serving as a member of World Dementia Council (WDC), the Salzburg Global Seminar's Advisory Council, Advisory Board Member of Elsevier Atlas, and the Dementia Innovation Alliance hosted by the Ministry of Economy, Trade and Industry (METI), Japan. He was awarded the 32nd Takemi Incentive Award in 2022. He is a graduate of Keio University's Faculty of Policy Management and holds a MSc in Medical Anthropology from the University of Amsterdam, the Netherlands.

**Yui Kohno**

(Manager, Health and Global Policy Institute / AMR Alliance Japan)

Ms. Yui Kohno is a graduate of the University of Sydney School of Public Health's Faculty of Medicine and Health in Australia. After obtaining a Master of Health Policy degree from the University of Sydney, Ms. Kohno joined Health and Global Policy Institute. There, she is responsible for research and analysis of national and global policy challenges within and beyond the fields of Antimicrobial Resistance (AMR) and vaccination. Her activities include planning and coordinating conferences for better policy dialogue and discussion and engaging in public relations, outreach, and advocacy activities.

**Patriq Fagerstedt**

(Senior Research Policy Officer, Vetenskapsrådet, Swedish Research Council / Acting Head of the Secretariat, the Joint Programming Initiative on Antimicrobial Resistance (JPIAMR))

Dr. Fagerstedt obtained his Ph.D. in neuroscience from Karolinska Institutet (KI). He continued his academic career first by doing a postdoc at University of Antwerp, followed by a fellowship from the Swedish Brain Foundation at KI. He worked also as postdoc at Astra Zeneca for 2 years, before joining the Grants Office at KI, as Compliance Officer for US grants. In 2014 Patriq joined Vetenskapsrådet, the Swedish Research Council, as Senior Research Policy Officer. In 2017 he became Programme Manager for the Swedish National Research Programme on Antibiotic Resistance. He is also the Chairman of the Swedish national trade union Naturvetarna (the Swedish Association of Professional Scientists) since 2021.

**Camilla Björn**

(Project leader, Antibiotic Smart Sweden / RISE Research Institutes of Sweden)

Camilla Björn, MSc, PhD in Medicine, is a researcher and project leader at RISE Research Institutes of Sweden. She is responsible for the focus area Infection management and she is the leader of Antibiotic Smart Sweden. She has almost 20 years of experience within the Life Science sector - from preclinical and clinical development of pharmaceuticals and medical devices to the societal challenge linked to infectious diseases and antimicrobial resistance.

**Gunilla Skoog Ståhlgren**

(Project leader, Antibiotic Smart Sweden / Public Health Agency of Sweden)

Gunilla Skoog Ståhlgren, MSc in Pharmacy, works at the Public Health Agency of Sweden. More than 20 years of experience working within the area of antibiotic resistance, from surveillance of antibiotic use, collaborating with regional Strama groups, coordinating clinical trials to leader of the Vision driven health initiative Antibiotic Smart Sweden.

**Shogo Osaki**

(Director, Community Medical Division, Health and Welfare Bureau, Himeji City)

Shogo Osaki graduated from the Faculty of Law, Waseda University in 1999. In February 2022, he drafted the “Himeji City Declaration on AMR Measures Promotion”, and since then has been focusing on educational projects for citizens about AMR measures.

**Hirofumi Hirayama**

(Director, One Health General Promotion Division, Fukuoka Prefectural Government)

Hirofumi Hirayama joined the Fukuoka Prefectural Government in 1993. He assumed his current position as Director of the One Health General Promotion Division in 2024 after serving as the Counselor on Cancer and Infectious Disease Control Division in the Health and Medical Care Department and as the Director of the Vaccination Promotion Office.

**Lillan Fahlstedt**

(Public Health Strategist, Tanum Municipality)

Lillan Fahlstedt has been a public health strategist in Tanum Municipality since 2022. Her work has included testing the criteria for Antibiotic Smart Sweden, where Tanum served as a pilot municipality. She holds a master’s degree in public health from Linköping University.

### **About Health and Global Policy Institute (HGPI)**

Health and Global Policy Institute (HGPI) is a non-profit, independent, non-partisan health policy think tank established in 2004. As a neutral think-tank, HGPI involves stakeholders from wide-ranging fields of expertise to provide policy options to the public to create citizen-focused healthcare policies successfully. Looking to the future, HGPI produces novel ideas and values from a comprehensive perspective. It aims to realize a healthy and fair society while holding fast to its independence to avoid being bound to the specific interests of political parties and other organizations. HGPI intends for its policy options to be effective in Japan and the broader world. In this vein, the institute will continue to actively create policies for resolving global health challenges. HGPI's activities have received international recognition. It was ranked second in the "Domestic Health Policy Think Tanks" category and third in the "Global Health Policy Think Tanks" category in the Global Go To Think Tank Index Report presented by the University of Pennsylvania (as of January 2021, the most recent report).

### **About AMR Alliance Japan**

AMR Alliance Japan is an independent platform for the promotion of multisector discussion on AMR countermeasures. Since its establishment in November 2018, AMR Alliance Japan has worked with Alliance members and partner organizations to deepen policy debate around AMR. Current Members (in alphabetical order, as of October, 2024) are bioMérieux Japan Ltd., GlaxoSmithKline K.K., Himeji City, Japan Medical Association, Japan Pharmaceutical Association, Japan Pharmaceutical Manufacturers Association, Japanese Society for Pediatric Infectious Diseases, Japanese Society of Antimicrobials for Animals, Japanese Society of Chemotherapy, Japanese Society of Hospital Pharmacists, "Kodomo to Iryo" Project, Meiji Seika Pharma Co., Ltd., Merck & Co., Inc., Nippon Becton, Dickinson and Company, Ltd., Pfizer Japan Inc., Shimadzu Diagnostics Corporation, Shionogi & Co., Ltd., The Japanese Society for Medical Mycology, The Japanese Association for Infectious Diseases, The Japanese Society for Clinical Microbiology, The Japanese Society for Infection Prevention and Control, The Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences, The Japanese Society of Therapeutic Drug Monitoring, The Pharmaceutical Society of Japan, Health and Global Policy Institute (HGPI) serves as Secretariat of the Alliance.

## **Health and Global Policy Institute: Guidelines on Grants and Contributions**

As an independent, non-profit, non-partisan private think tank, HGPI complies with the following guidelines relating to the receipt of grants and contributions.

### **1.Approval of Mission**

The mission of HGPI is to improve the civic mind and individuals' well-being, and to foster a sustainable healthy community by shaping ideas and values, reaching out to global needs, and catalyzing society for impact. The activities of the Institute are supported by organizations and individuals who are in agreement with this mission.

### **2.Political Neutrality**

HGPI is a private, non-profit corporation independent of the government. Moreover, we receive no support from any political party or other organization whose primary purpose is political activity of any nature.

### **3.Independence of Project Planning and Implementation**

HGPI makes independent decisions on the course and content of its projects after gathering the opinions of a broad diversity of interested parties. The opinions of benefactors are solicited, but the Institute exercises independent judgment in determining whether any such opinions are reflected in its activities.

### **4.Diverse Sources of Funding**

In order to secure its independence and neutrality, HGPI will seek to procure the funding necessary for its operation from a broad diversity of foundations, corporations, individuals, and other such sources. Moreover, as a general rule, funding for specific divisions and activities of the Institute will also be sought from multiple sources.

### **5.Exclusion of Promotional Activity**

HGPI will not partake in any activity of which the primary objective is to promote or raise the image or awareness of the products, services or other such like of its benefactors.

### **6.Written Agreement**

Submission of this document will be taken to represent the benefactor's written agreement with HGPI's compliance with the above guidelines.

## **Health and Global Policy Institute (HGPI)**

Grand Cube 3F, Otemachi Financial City,

Global Business Hub Tokyo

1-9-2, Otemachi, Chiyoda-ku, Tokyo

100-0004 JAPAN

TEL: +81-3-4243-7156 FAX: +81-3-4243-7378

Info: [info@hgpi.org](mailto:info@hgpi.org)

Website: <https://www.hgpi.org/en/>